

# 文化経済学

第13巻第1号（通算第40号）

2016年3月

## 巻頭「国際文化交流の現在」

- 「東アジア文化都市」のゆくえ 太下 義之 (1)
- 転換期にある日本の国際文化交流 菅野 幸子 (6)

## 論文

- 社会生活基本調査による文化需要のコーホート分析 新谷 正彦・勝浦 正樹 (12)
- 光トポグラフィーを用いた脳科学的研究の文化経済学への応用  
—ホスピタリティに着目して— 牧 和生 (25)
- アートと趣味縁の拠点における「非クリエイティブクラス」のハーフシフトについて  
—札幌市のOYOYOゼミの事例から— 加藤 康子 (36)
- 大学ミュージアムによる多様な創造環境の形成  
—歴史都市の持続的発展における芸術系大学の社会的役割— 前田 厚子 (45)

## 書評

- 刈谷剛彦編著『地元の文化力—地域の未来のつくりかた』  
河出ブックス, 2014年、 後藤 和子 (62)
- 野呂田純一著『幕末・明治の美意識と美術政策』  
宮帯出版社, 2015年 鈴木 邦夫 (66)
- 吉田隆之著『トリエンナーレはなにをめざすのか—都市型芸術祭の意義と展望』  
水曜社, 2015年 澤村 明 (69)